

2 修理

(1) 修理前の状況

ア 畳み図

(ア) 装丁

- ・ 折り畳まれ、収納ケースに納められていた。
- ・ 裏打ちされていないまくりの資料、裏打ちを1～2回程度されていた資料に大別された。
- ・ 裏打ちされた資料には、元装と見られる本紙の周りに別紙を継ぎ足し、裏打ちされている資料が多く見られた。継ぎ足された別紙の多くには、内題などが墨書され、中には、指図の描線が書き足されている資料も見られた。〔図1〕
- ・ 一部の資料で、本紙裏面に墨書や印などがみられた。(以下、紙背とする。)
- ・ 裏打ち紙に直接、外題などの墨書や印のある資料及び、外題箋の貼られた資料が見られた。

(イ) 継ぎ手

- ・ 資料の大半が、小判の和紙を糊にて継ぎ合わせて一鋪とされていた。
- ・ 継ぎ手の糊の接着力が低下し、継ぎ手が外れていた。
- ・ 過去の修理において、指図の描線がずれた状態で継ぎ直されていた。
- ・ 過去、外れた継ぎ手に簡便的に糊がさされ、継ぎ直された形跡がみられ、その部分が茶褐色に変色していた。

(ウ) 虫損

- ・ 虫害による損傷(以下、虫損)が見られた。虫損が、折り畳みの線にかかっており、本紙が崩れ、指図の描線、文字などが見えづらくなっていた。〔図3,4〕
- ・ 虫損の周りに虫糞の付着が見られた。
- ・ 一部の資料では、過去の修理の補紙が見られた。

(エ) 汚れ

- ・ 黒いスス汚れが見られた。特に折り畳まれた外側が顕著であった。
- ・ 水を受けたと考えられる、強い染みが見られた。一部の資料では、水を受けた後、カビが発生した形跡が見られ、本紙にふけが生じ劣化していた。〔図5,6〕

(オ) 墨・朱線、彩色

- ・ 水を受けたことを主な原因とする、指図の描線、彩色の滲み、または、折り畳みの反対面への色移りが見られた。

(カ) 図書館の請求番号のラベル、受け入れ印の押された貼り紙、旧蔵者のラベル〔図2,7〕

- ・ 本紙裏面に図書館の請求番号のラベル、受け入れ印の押された貼り紙、及び旧蔵者によるラベルが貼られていた。一部の資料で受け入れ印のインクが滲み、本紙に付着していた。

(キ) 指図の修正、変更

以下のような、多手法による図面の修正、変更が見られた。

- ① 指図の図面上に別紙を貼り紙（以下、修正紙）し修正、変更したもの。
貼り紙の貼り付け方として、以下に示す4点に大別できる。
 - (a) 貼り紙の全面を糊付けしたもの
 - (b) 貼り紙の四辺を袋状に糊付けしたもの
 - (c) 貼り紙の一边を糊付けし、掛け紙のように下の図面が必要なとき見開きできるもの〔図8〕
 - (d) 貼り紙の角を点状に糊付けしたもの〔図9〕
- ② 指図の修正箇所を切り抜き、糊代を加えた大きさの修正紙を裏面より貼り付け修正、変更したもの
- ③ 指図の修正箇所の上より白い液体状のものを塗布し、修正、変更したもの
- ④ 指図の修正箇所の紙を薄く削り取り、上より白い液体状のものを塗布し、修正、変更したもの

修理前の状況として、

- ・ 糊付け部分の接着力が低下し、外れている。また、外れかかっている資料が見られた。
- ・ 過去の修理により、貼り紙の図面と下の図面との貼り付け位置のずれが見られた。
- ・ 過去の修理の貼り紙の貼り直しの糊が、茶褐色に変色している資料が見られた。
- ・ 上記②の修正、変更がされたと考えられる部分の修正紙が脱落し、欠損部のみ残る資料が見られた。

(ク) 二階図面

- ・ 糊付け部分の接着力が低下し、外れている。また、外れかかっている資料が見られた。
- ・ 取り扱いの都合上、元装とは別な部分に糊付けされ、下の図面が見られない状態の資料が見られた。
- ・ 大型図面（一边の長さが2mを超える資料）において、二階図面が裏打ちにより硬くなっており、土台の図面に添いにくく、浮かび上がった状態となっていた。そのため、不自然な形で折り畳まれた際に出来たと考えられる、皺が見られた。

(ケ) 折り畳み

- ・ 地図畳の資料、不規則な畳み方の資料などさまざまな折り畳み方が見られた。〔図10〕
- ・ 数回畳み変えられた形跡が見られた。元装の本紙の四方又は、両端に別な紙を足し紙し、全体に裏打ちされており、周りの足し紙を行う以前の折り跡と以後の折り跡が見られる資料があった。
- ・ 縦折りと横折りの交差する部分が磨耗により劣化し、製図の描線、文字などの欠失が見られた。

イ 冊子

(ア) 装丁

- ・ 本紙7丁、縦半分で折られた袋綴装になっており、渋引き紙に無地の紙の見返しを取り付けた表紙、裏表紙と共に、線装綴の四ツ目綴に仕立てられていた。

(イ) 虫損

- ・ 虫害による損傷が多数見られた。虫損部の周りに虫糞の付着が見られた。

(ウ) 汚れ

- ・ 本紙全体に経年による汚れが見られた。

(エ) 裏打ち

- ・ 本紙に1回裏打ちされていた。本紙に見られる虫損は裏打ち紙に通っていなかった。

(オ) 付箋

- ・ 本紙に墨書された付箋が数箇所貼られていた。

ウ 折本

(ア) 装丁

[請求番号 6181-02]

- ・ 指図20面と始めと終わりに表紙取り付けのための二紙を合わせて22紙からなり、それに芯紙付きの表紙裂と砂子蒔きの見返し紙とで挟むように、表紙が、取り付けられていた。
- ・ 装丁は、中国の碑法帖の装丁によく見られる形式で、一紙ごとに本紙面を内側に真半分に折り重ね、折り目と反対側の裏面同士を糊で細く継ぎ合わせ仕立てられていた。

[請求番号 6194-02]

- ・ 指図26面と見返し、奥付けを合わせて28紙からなり、本紙の周りに桂唐紙の装飾紙が貼られていた。
- ・ 芯紙付きの表紙裂を見返しに貼り、表紙が取り付けられていた。

(イ) 汚れ

- ・ 本紙全体に経年による汚れが見られた。

(ウ) 裏打ち

[請求番号 6181-02]

- ・ 本紙一紙ごとに2回裏打ちされていた。

[請求番号 6194-02]

- ・ 本紙に肌裏打ちをし、本紙の周りに桂唐紙を切継ぎ、第一紙目より本紙五紙を一

組(最終三紙一組)とし、増裏打ちされていた。

(エ) 虫損、欠損

- ・ 虫害による損傷が見られた。虫損部の周りに虫糞の付着が見られた。

[請求番号 6194-02]

- ・ 本紙各紙のほぼ同じ位置に規則的に繰り返し大きな欠損が見られ、過去の修理において補紙をし、指図の描線、文字などの欠落部に加筆されていた。

エ 卷子

(ア) 装丁

- ・ 本紙を継ぎ合わせ、全体に一度裏打ちされ、表紙、奥付などを付け卷子とされていた。
- ・ 表紙は緞子、軸首は紫檀の印可軸が付けられていた。

(イ) 継ぎ手

- ・ 本紙同士の継ぎ手は、本紙の端がそれぞれ欠損した状態で継がれており、部分的に厚く重なった状態で継がれていた。その為、端に書かれた描線が、継ぎ手の下に隠れている部分が見られた。

(ウ) 貼り紙

- ・ 本紙には、指図製図過程の貼り紙が数多く貼られ、二重三重に貼り重ねられた箇所も見られた。卷子装により巻かれていたことにより、多くの貼り紙が糊離れを起こし、外れかけており、折れや皺を生じていた。また、一度外れた貼り紙を、応急的に貼り直した形跡が見られた。

(2) 修理の基本方針

(ア) 本紙の継ぎ手

- ・ 継ぎ手の外れている部分は、元装の形に継ぎ合わせる。
- ・ 過去の修理などにおいて継ぎ手がずれ、図面の製図に狂いが生じているものは、元装をたどり、可能な限り正しい位置で継ぎ戻す。

(イ) 虫損、欠損部分

- ・ 図書館又は過去の修理で施された旧補紙は基本的に除去する。
- ・ 虫糞などの付着物を除去し、補紙を行う。
- ・ 指図の修正のために切り抜かれたと考えられる欠損部には、取り扱い上の保護として補紙を行う。その際、虫損部の補紙と視覚的に識別可能な補紙を行う。
- ・ 過去の綴じ穴、針穴には補紙を行わない。

(ウ) 汚れ

- ・ 経年における全体の汚れ、スス汚れ、水を受けた際に出来た染みは本紙に無理のない程度に除去する。
- ・ 汚れの除去においては、漂白剤などの化学薬品は一切使用しない。

(エ) 図書館の請求番号のラベル・受け入れ印の押された貼り紙、旧蔵者のラベル

- ・ 本紙に直接貼られた図書館の請求番号のラベル・受け入れ印の押された貼り紙、旧蔵者のラベルは、取り外す。
- ・ 修理後、請求番号のラベル、受け入れ印を押した添付紙は、本紙に直接貼り付けない形とする。

(オ) 裏打ち

- ・ 朱書き、印の情報がある裏打ち紙は、基本的に再使用する。その際、その情報部分のみを切り抜き、新規裏打ち紙に詰め込み、裏打ちすることは行わず、原則として一面全ての裏打ち紙を再使用する。
- ・ 墨書、朱書、印の情報がない裏打ち紙も、紙質及び構造的な強度などに問題のない場合は、再使用する。
- ・ 裏打ちがなされていない資料は、構造上取り扱いに問題がない限り新規に裏打ちを行わない。

(カ) 二階図面

- ・ 二階図面のある資料の糊付け位置は元装をたどり、可能な限り元の状態に戻す。

(キ) 製図上の情報

- ・ 作図の際のへらのようなもので引かれた凹線、針で開けられたような小さな穴、修正の痕跡は、保存する。〔図 11,12〕

(ク) 畳み図の折り畳み方

- ・ 元装の折り方から数回に渡り折り方を変えられており、足し紙がなされ大きさも変化している資料が多いため、元装の折り方に戻すことは難しい。資料全体の現状の折り方にも規則性があまり見られない。これらを考慮に入れ、保存を優先し、折り畳みの折部分の負担を軽減するため、可能な限り折り畳の数を減らし、収納箱に収納する。過去の折り畳みについては、記録として残す。〔図 13,14〕
- ・ 修理後の折位置は原則として現在の折り線、または以前に折られていた形跡の確認できる折り線を使用し、新たな折り線をつけない。
- ・ 修理後の折り畳みの折方向は、資料の保存を優先するため、旧折り畳みの谷折り、山折りと一致しない場合もある。

(ケ) 紙背等の隠れた情報

- ・ 裏打ち紙を外した際、本紙の裏面及び肌裏打紙に書かれた文字等情報は写真撮影(ブローニ 6×9 判ポジカラー)による記録を行う。

(コ) 収納

- ・ 修理を終えた資料及び修理対象外の江戸城造営関係資料についても、取り扱いの際、無理のない大きさ重量を検討し、共通の大きさの布貼り中性紙保存箱を作製し、納める。
- ・ 修理対象の畳み図の大型図面、冊子、折本、卷子は、それぞれ一点ずつに専用の保存箱を作製する。

(カ) 使用材料

- ・ 「水」 フィルター、粒状活性炭の濾過器を通し、塵、ごみ、鉄分、塩素などを除去した濾過水を用いる。
- ・ 「糊」 添加物を含まない小麦粉澱粉糊を使用する。
- ・ 「紙」 楮もしくは雁皮を原料とし、苛性ソーダによる煮熟を行わない手漉き和紙を使用する。

(3) 修理の概要

ア 修理の内容

ここでは装丁によらず共通する事項を記し、装丁により異なる事項については修理工程で記す。

(ア) 修理における調査、記録

- ・ 4×5 判ポジカラー、ブローニ 6×9 判ポジカラー、35mm ネガカラー、デジタルによる写真撮影
- ・ 修理前の寸法
- ・ 装丁
- ・ 損傷状況
- ・ 折り畳み(現状の折数、現状以外の折り跡、位置、折りの方向)
- ・ 彩色、印、受け入れ印の貼り紙、請求番号ラベル、旧蔵者のラベル
- ・ 貼り紙、付箋等の有無、糊付け位置
- ・ 裏打ちの有無、墨書きなどの情報、継ぎ手、裏打ち紙の材質
- ・ 修正の有無、貼り付け位置
- ・ 紙背

以上の項目を資料の内容に合わせ、調査、記録を行った。

(イ) 汚れの除去

- ・ スス汚れは、水に濡れると繊維間に入り込み定着してしまうため、水を使用する

修理を行う前に、クリーニングパッド(粉消しゴム)を使用し、汚れを除去した。

- ・ クリーニングパッドは、和紙の繊維間への侵入や残留しない粒子の粗いものを使用した。
- ・ 全体の汚れ、水受けの染みは、本紙に濾過水で湿りを与え、吸い取り紙へその湿りを移行させる際、本紙の汚れを移し取る方法で除去した。水の使用量については、彩色、墨線、朱線及び、作図におけるへらのようなもので引かれた凹線などの情報の保存を最優先とし、本紙に無理のない範囲で一点一点判断しながら、調整した。〔図 15〕

(ウ) 図書館請求番号のラベル、受け入れ印の押された貼り紙、及び旧蔵者のラベルの除去

- ・ 請求番号のラベル及び、旧蔵者のラベルは、まず乾いた状態でラベルの表面のみを剥がし取り、次に本紙に残った粘着部分に軽く湿りを与え、本紙を傷めないよう除去した。取り外したラベルは別保存とした。
- ・ 受け入れ印の押された貼り紙は四隅を点状の糊で付けられていた。部分的に軽い湿りを入れ、本紙を傷めないように除去した。受け入れ印のインクは水により散るため、充分留意して除去作業を行った。
- ・ 過去の水受けにて受け入れ印のインクが散り、本紙に色移りしている部分は、今後の作業において、本紙に付着したインクの滲みが広がらないように筆にて部分的に湿りを与え、その水分とともに動くインクを吸い取り紙に移動させ除去した。インクが動かなくなるまで同作業を繰り返した。

(エ) 剥落止め及び修理作業中の滲み防止

- ・ 朱書き、彩色、本紙に直接押された蔵書印に膠水溶液を筆にて塗布し、剥落止め、修理作業中の滲み防止を行った。また、本紙及び墨の状態に応じて墨書部分にも同様の処置を行った。〔図 16〕

(オ) 裏打紙の除去

- ・ 本紙裏面より軽い湿りを入れ、裏打紙を除去した。
- ・ 裏打紙は再使用することを前提に、位置、継ぎ手などの記録を行い、本紙、裏打紙共に傷めないように慎重に取り外した。
- ・ 裏打紙には木材パルプ及び、稲わらなどを配合した紙力の弱い紙が使用されているものがあり、本紙と裏打紙を共に傷めることなく取り外すことが不可能な場合は、本紙を最優先とし、裏打紙を少量ずつくずしながら本紙に無理のないように除去した。

(カ) 継ぎ手の処置

- ・ 継ぎ手の外れている部分に糊を差し接着した。また、他の継ぎ手についても接着力に応じて、一度継ぎ手ははずして、糊を差し継ぎ直した。〔図 17,18〕
- ・ 指図の描線がずれて継がれていた箇所は、元装の継ぎ手の位置を確認し一度継ぎ手ははずし、正して継ぎ直した。〔図 19、20〕

- ・ 継ぎ手の過去の糊差し部分に変色している場合、一度継ぎ手を外し変色している糊の固まりを除去して継ぎ直した。

(キ) 虫損部、欠損部への補紙

- ・ 虫損部の周りに付着している虫糞を物理的に除去した。
- ・ 虫損部の形に合わせ、わずかに大きく切った補修紙の周囲を、欠損部周囲の重なりと段差が出来る限り生じないように薄くし、本紙裏面より少量の布海苔を混ぜた新糊にて接着し、補紙をおこなった。〔図 21,22〕

(ク) 本紙周りの保護の足し紙

- ・ 本紙周りに取り扱い上の保護として、裏打ち紙がある資料のみ足し紙を行った。
- ・ 足し紙は、周りへの補紙、新規の裏打ち紙を延ばすなどし、指図の大きさに応じて、3～6 mm延ばし断ち落とした。〔図 23,24〕
- ・ 本紙の厚みに合わせ、足し紙に厚み調整の補紙などを行い、本紙と足し紙のバランスに留意した。

イ 修理工程

<畳み図>

- ① 修理前の調査、記録
- ② クリーニングパッドを使用したスス汚れの除去
- ③ 図書館請求番号のラベル、受け入れ印の押された添付紙、及び旧蔵者のラベルの除去
- ④ 剥落止め及び修理作業中のしみ防止
- ⑤ 裏打ち紙の取り外し
- ⑥ 水を使用した汚れ、染みの除去
- ⑦ 本紙継ぎ手の継ぎ直し
- ⑧ 欠損部への補紙

[裏打ち紙再使用]

- ⑨ 裏打ち紙の汚れの除去
- ⑩ 裏打ち紙の欠損部への補紙
- ⑪ 新規肌裏打ち (※)
- ⑫ 裏打ち紙の貼り戻し
- ⑬ 化粧断ち
- ⑭ 折り畳み (※)
- ⑮ 修理後の記録

[裏打ち紙新調]

- ⑨ 新規肌裏打ち
- ⑩ 新規増裏打ち (※)
- ⑪ 化粧断ち
- ⑫ 折り畳み (※)
- ⑬ 修理後の記録

[裏打ちなし]

- ⑨ しわ伸ばし
- ⑩ 折り畳み (※)
- ⑪ 修理後の記録

(※) の工程については資料によって行っていないものもある。詳細については「修理状況一覧表」を参照 p. 20 - 27)

(ア) 汚れの除去

- ・ 折り畳み外側のスス汚れは、過去の折り畳みの形を推測する手がかりとなるため、完全な除去は行わず、痕跡を残した。〔図 25、26〕

(イ) 継ぎ手の処置

- ・ 全ての継ぎ手を継ぎ直す場合でも、一度に全ての継ぎ手を外して継ぎ直すことは行わず、部分的に継ぎ手を外して接着することを繰り返し、出来る限り図面にひずみを生じさせないような方法で継ぎ直した。但し、過去の修理において継ぎ手が大きく広範囲でずれてしまっている場合、一度全てを外して、描線に合わせて継ぎ直しを行った。

(ウ) 欠損部への補紙

- ・ 指図の修正のために、切り抜かれたと考えられる欠損部には、虫損部の補修との区別を図るため、虫損部の補修紙より白い填料入りの和紙を使用した。〔図 27,28〕

(エ) 再使用する裏打紙の処置

- ・ 裏打ち紙全体の汚れ、水受けの染みに濾過水で湿りを与え、吸い取り紙へその湿りを移動させる際、汚れを移し取る方法で除去した。
- ・ 再使用する裏打紙の中には木材パルプを混合した紙があり、出来る限り酸性物質などを除去するため十分な洗浄を行った。
- ・ 裏打紙の欠損部への補紙は、本紙への補紙と同様に行った。
- ・ 補修紙は裏打紙の紙質に似寄りの紙を使用した。

(オ) 裏打ちについて

〔裏打紙を再使用する場合〕

- ・ 本紙と再使用する裏打紙とは、折り位置及び欠損、虫損の損傷位置が一致しており、そのまま裏打紙を戻した場合、損傷部が脆弱な状態のままになり、今後の保存活用において損傷を招く危険が高い。そのため、基本的に本紙と再使用する裏打紙の間に、新規に薄手の楮紙を挟む形で裏打ちすることにより、構造的な強度を補った。また、このことにより、木材パルプが配合されている再使用する裏打紙の本紙への影響を緩和させる役割もあると考えられる。
- ・ 間に挟む裏打紙は、基本的に薄手の薄美濃紙を使用した。また本紙の状態、色、透け具合などにより、自然な色を残した楮紙及び填料入りの楮紙などを使用した。

〔裏打紙を再使用しない場合〕

- ・ 原則として文字情報のある裏打紙については再使用する方針ではあったが、図面全体の構造的な問題、再使用する裏打紙の紙質からくる強度の問題が生じて、再使用に適さないと判断した裏打紙については使用せず別保存した。
- ・ その場合、資料には新規に裏打ちを行うか、もしくは裏打ちをせずに本紙のみで保存することとした。

- ・ 新規裏打紙は本紙の状態に合わせ、新糊にて裏打ちを行った。

(カ) 裏打ちされていない資料の処置

- ・ 本紙に軽い湿りを与え、^お押しをし、皺を伸ばした。
- ・ 皺伸ばしの際本紙の風合い、へらのようなもので引かれた凹線などに留意し、使用する水の量、押しの強さを調整した。
- ・ 原則として裏打ちされていない資料は新規に裏打ちを行わない方針であったが、本紙が脆弱で不定型なため、今後の取り扱いに危険を生じる可能性が高いと判断し、請求番号 6166-06 の資料のみ、薄手の裏打ちを行った。

(キ) 修正、変更の貼り紙の処置

- ・ 指図の修正、変更の貼り紙のほとんどが、細かな描線が本紙と貼り紙にまたがっており、これらに歪が出来るだけ生じないように、基本的には修正紙を完全には取り外さずに修理を行った。糊付け部分は継ぎ手同様に部分的に持ち上げて新糊にて付け直した。
- ・ 過去の修理の貼り直しによる糊の変色部分は、一度剥がし変色した糊を物理的に除去し、貼り戻した。
- ・ 過去の修理により貼紙の貼り付け位置がずれていたものは、元の貼り位置を示す痕跡があったことにより正しい位置に貼り直した。〔図 29,30〕

(ク) 二階図面の処置

- ・ 裏打ちされている場合、本紙同様、裏打ち紙を取り外した。
- ・ 大型図面に貼られていた二階図面は後世のものと見られる裏打ちがされていた。これらの図面の裏打ちは比較的厚手の紙で、柔軟性に欠け、本紙に沿わない状態であるため、損傷する危険があった。修理前の裏打紙は取り外し、本紙に沿いやすくするために、薄手で柔らかい楮紙で新糊を用い裏打ちした。

(ケ) 折り畳み

- ・ 収納に合わせて、指図の書かれている情報、貼り紙、損傷部などを可能な限り避け、過去の折線の位置より選択し、折り畳みの方法を検討し、へらにて折り筋を付け折り畳んだ。
- ・ 取り扱いを考慮し、ジャバラ状に山折り、谷折りを交互に繰り返す折り畳み方を基本とし、可能な範囲で規則性を持たせた。
- ・ 縦折りと横折りが交差する場合、後から折る側の折りに丸みを持たせ、ゆるやかに折り、交差する部分への負担を分散させた。

<冊子>

- ① 修理前の調査、記録
- ② 綴じを外し、表紙及び、本紙を1紙ごとに解体

- ③ 本紙に貼られていた付箋の取り外し
- ④ 剥落止め及び修理作業中の滲み防止
- ⑤ 裏打紙の取り外し
- ⑥ 汚れの除去
- ⑦ 虫損部への補紙
- ⑧ 皺伸ばし
- ⑨ 仕立て（本紙の折り、綴じ、付箋の貼り戻し）
- ⑩ 修理後の記録
 - ・ 本紙第一紙目に題字が書かれていることから、渋引き紙の表紙は後世のものと考えられる。元装に復するということから、渋引き紙の表紙は取り付けず、別保存とした。本紙のみで、第一紙目を表紙とみなし、修理前の線装綴の穴を再使用し、上下二箇所を紙のこよりにて仮綴じとした。

<折本>

- ① 修理前の調査、記録
- ② 折本の解体
- ③ 表紙、裏表紙、本紙継ぎ手を外し解体
- ④ 剥落止め及び修理作業中の滲み防止
- ⑤ 裏打紙の取り外し
- ⑥ 汚れの除去
- ⑦ 虫損部への補紙
- ⑧ 本紙の肌裏打ち

[請求番号 6194-02]

- ⑨ 装飾紙の裏打ち紙の取り外し
- ⑩ 装飾紙の汚れの除去
- ⑪ 装飾紙の虫損部への補紙
- ⑫ 装飾紙の肌裏打ち
- ⑬ 本紙と装飾紙の切継ぎ
- ⑭ 増裏打ち
- ⑮ 表紙の作製
- ⑯ 仕立て
- ⑰ 修理後の記録

[請求番号 6181-02]

- ⑨ 本紙の増裏打ち
- ⑩ 表紙の作製
- ⑪ 仕立て
- ⑫ 修理後の記録

共通

- ・ 本紙には多数の虫損が見られたが、裏打紙にはほとんどない状態であった。このことより本紙が虫害にあった後の裏打ちと考えられる。折本の構造上取り扱いにおいて折り部への負担が非常に大きく、今後の保存を重視し、新しい裏打紙に取り替えた。[図 31、32]

[請求番号 6194-02]

- ・ 本紙周りの桂唐紙による装飾紙は、紙質上問題が無く、現在の形式上の装丁は変

えないという修理方針より再使用とした。

- ・ 補修紙は再使用する装飾紙と同素材の竹紙を使用した。
- ・ 表紙の芯紙は GP（碎木パルプ）より製紙されており、表紙は、明治期以降につけられ、元装のものではないと見られる。また、本紙に保護のための足し紙をしたことによる寸法の変更と、表紙裂の劣化損傷及び芯紙の紙質の問題により、表紙裂および芯紙は新調した。
- ・ 新調の表紙裂を矢車染めし、薄美濃紙にて新糊を用い、裏打ちを行った。新調した芯紙に貼りくるみ、元の表題を貼り戻し、仕立てた。修理前と同じ形式で本紙と表紙とを合わせた。
- ・ 芯紙には中性紙の厚紙を使用し、厚紙と表紙裂の間に表紙にやわらかな丸みを出すために薄い楮紙を数枚入れた。
- ・ 修理前と同様、本紙と装飾紙をそれぞれ肌裏打ちした後、本紙五紙を一組(最終三紙一組)とし、切継ぎし増裏打ちを行い、全体を切継ぎ仕立てた。請求番号 6181-02 と同様に裏打ち紙は新調した。

[請求番号 6181-02]

- ・ 表紙の芯紙は木材パルプを配合し製紙されており、表紙は明治期以降のものと考えられ、元装の表紙ではないと見られる。請求番号 6194-02 と同様に、表紙裂及び、芯紙は新調し、仕立てた。
- ・ 修理前の装丁は全体を開け広げられない形式であったが現在の装丁を変えないということにより修理前の装丁と同じに仕立てた。

<卷子>

- ① 修理前の調査、記録
- ② 表紙、奥付を取り外し解体
- ③ 貼り付け図面の取り外し
- ④ 剥落止め及び修理作業中のしみ防止
- ⑤ 裏打紙の取り外し
- ⑥ 本紙、貼り紙の汚れの除去
- ⑦ 本紙、貼り紙の虫損部への補紙
- ⑧ 本紙と隔て紙の切継ぎ
- ⑨ 肌裏打ち
- ⑩ 増裏打ち
- ⑪ 貼り紙の皺伸ばし
- ⑫ 貼り紙用台紙作製
- ⑬ 台紙への貼り紙添付
- ⑭ 表紙の作製
- ⑮ 仕立て
- ⑯ 修理後の記録

(ア) 隔て紙

- ・ 本来この卷子は図面の内容の共通点が少なく、一紙ごとの単独で扱われてきたものを後世に卷子装にまとめたと考えられる。修理後は本紙と本紙の間にわずかではあるが隔て紙を入れた。そのことにより、継ぎ手の下に隠れた描線を表側に出すことが出来た。〔図 33,34〕

(イ) 裏打ちについて

- ・ 修理前は、本紙を継ぎ合わせた後、楮紙にて一度裏打ちされていた。裏打ち紙に文字情報等はなく、本紙に隔て紙を入れ、天地の保護の為に足し紙をつけることにより、再使用する場合、裏打ち紙の寸法に不足が生じるため、保存を優先とし、旧裏打ち紙は別保存した。
- ・ 修理前には楮紙一回で裏打ちされていたが、本修理では、今後の取り扱い上の強度を考慮に入れ、二回の裏打ちとした。本紙と隔て紙を継ぎ合わせ、薄手の楮紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った。増裏打ちは、卷子として巻きほどこす際の本紙面への摩擦による損傷を軽減するために、表面の平滑性が比較的高い楮混ざりの雁皮紙にて古糊を用いて裏打ちを行った。その際、本資料の性質上、厚くなりすぎないように留意した。

(ウ) 保護の足し紙について

- ・ 今後の取り扱い上の保護のために本紙の天地に足し紙を付けた。〔図 34〕

(エ) 貼り紙について

- ・ 貼り紙の本紙への糊付けの方法は、
 - (a) 四辺を袋状に糊付けしたもの
 - (b) 全面に糊付けしたもの
 - (c) 点状に数点を糊付けしたもの
 - (d) 一辺の端を通して糊付けしたものなど多種にわたってみられた。卷子として巻かれることにより、剥がれた貼り紙または、剥がれそうな貼り紙を後世に応急的に糊付けした形跡も見られ、元装の糊付けの方法を特定することは難しい。〔図 35〕
- ・ 貼り紙は、旧補紙を除去し、本紙図面の描線とずれを正し、補紙を行い、軽い押しをし、皺を伸ばした。
- ・ 中性紙の覆いを取り付けた中性紙の厚紙の台紙を作製し、貼り紙をヒンジにて、貼り付け位置の配置を同じくし、留め付けた。貼り付け図は裏面にも描線などの情報があるため、必要な時に、裏面を見られる形とした。

(オ) 表装について

- ・ 修理前に付けられていた表紙の見返しの紙に木材パルプが含まれていた。また奥付は木材パルプ 100%の組成の紙であり、卷子装、表紙、奥付等は後世の仕立て

であったと考えられる。見返しに蒔かれた銀砂子のようなものが、変色をおこしており、足し紙による本紙寸法の広がり、紙質の問題などにより、表紙裂、見返し、奥付は新調とした。また巻紐も、染料の移りが見られるため、新調とし、軸首についても学術資料に相応しい紫檀の切軸に取り替えた。

- ・ 表紙裂は修理前の表紙裂の雰囲気を残す裂を新調し、表紙裂を矢車染めし、薄美濃紙で裏打ちをし、新調した見返しを合わせ、竹の発装、紐を取り付け表紙を仕立てた。見返しは本資料の性質に合わせ、装飾を施さず、無地の楮紙で新調した。
- ・ 本紙に新調した表紙と奥付を取り付け、卷子装に仕立てた。〔図 36〕

(カ) 収納について

- ・ 現在の貼り紙の貼られ方は、大部分が元装の形から変化してしまっていることを含め、今後の資料の保存を最優先と考え、本紙から取り外し台紙に貼った状態で卷子と同一の保存箱に収納した。

(4) 明らかになった知見

ア 裏打紙について

(ア) 紙質検査

- ・ 修理を行うにあたり、再使用する予定であった裏打紙の紙力が弱くなっているものが見られ、紙質に問題があるのではという懸念により、まず数点について紙質検査を行った。その結果、裏打紙に木材パルプが混入していることが判明した。日本の楮紙の抄紙において、木材パルプの配合は明治期に入ってからとされている。裏打紙には直接墨書き、朱書きの題字、甲良家の印などが押されたものが含まれており、所蔵者である甲良家が明治期になってからも、裏打ちなどの資料の整理を行っていたのではないかと推測された。〔図 37,38〕
- ・ 裏打紙については、直接墨朱書、印のあるものは原則再使用するという基本方針を立てているため、紙質について、状態を把握するために紙質検査を行った。

(イ) 検査の実施

- ・ 紙質検査は高知県立紙産業技術センターに依頼し、繊維組成検査（JIS P 8120 による）を行った。紙質検査を行うにあたり裏打紙の継ぎ手の下に隠れている部分などから極微量の繊維の採取を行った。
- ・ 検査の結果、(別紙参照) 多数の資料の裏打紙より木材パルプが検出された。検体が極微量のため、検査の繊維組成の配合比については、参考程度の結果であった。

(ウ) 裏打紙再使用についての検討

- ・ この結果を踏まえ、連絡会で木材パルプの配合された裏打紙を再使用することについて検討を行った。
 - (a) この裏打紙が本紙に裏打ちされてから、相当の年月を経過しているものの、本紙の劣化などに大きく影響を与えている状況が確認できない。
 - (b) 本紙と再使用する裏打紙の間に構造的な強化のための裏打ちをすることによ

り、裏打紙が本紙に与える影響の緩衝になると思われる。

(c) この裏打紙は製作年代が明治期以降と予想された場合には、本資料を所有していた大棟梁の甲良家が後世において裏打ちを施し、題字などを書き入れ、整理を行ったという可能性もあり、これらも歴史的資料の一部と捉えることにつながる。

(d) 今後の保存環境という面から見ても、ある程度安定した環境下に保存される前提で、裏打紙の再使用が急激な劣化にはつながらないと考えられる。

これらの観点より、基本方針である裏打紙に直接、墨書、朱書、印などの文字情報があるものについては原則として、再使用するということを再度確認した。但し、これらの資料保存において、紙質検査の結果を本資料とともに保管し、環境管理の充実及び、資料の変化の観察を要することとした。

(エ) 墨書のない木材パルプ入りの裏打紙について

裏打紙を一度取り外した際、その下より、図書館の請求番号のラベルの紙片が、数点のものから確認された。またこれらの裏打紙に墨書などの文字情報はなく、紙質検査の結果木材パルプが検出されていた。これらの裏打紙は現所蔵者である図書館に入ってから行われた可能性が高いため、これらの裏打紙は取り外し、別保存とした。〔図 39,40〕

(オ) 裏打紙の分類

上述により、裏打紙については、

- (a) 元装もしくは元装に近い裏打紙
 - (b) 製作年代より後世に甲良家により裏打ちされた裏打紙
 - (c) 現在の所蔵者である図書館に入ってから行われた裏打紙
- 以上のように分類される。

イ 指図の製作技法

(ア) 修理資料の中には製図の技法としての痕跡が残っていた。

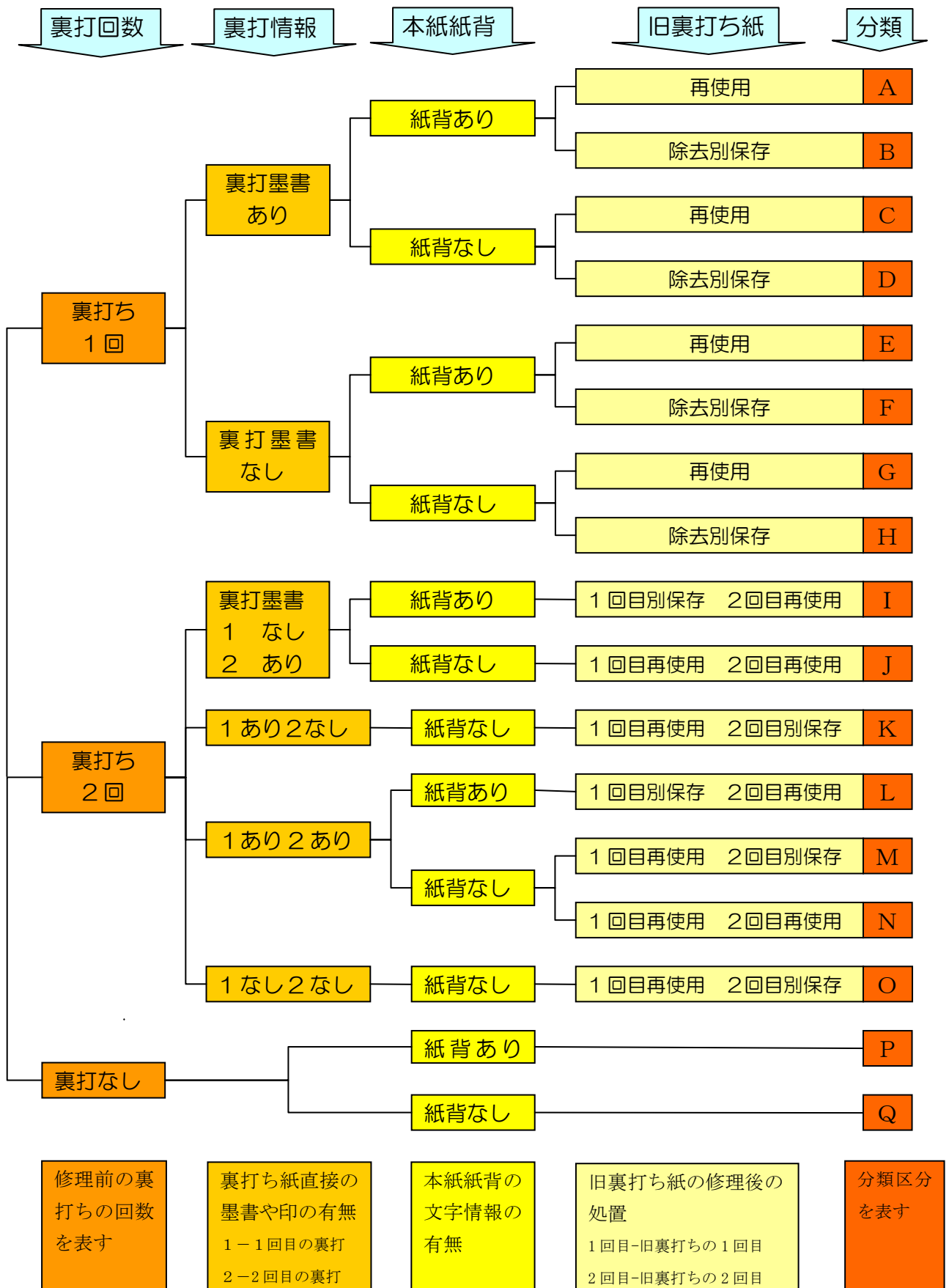
- ・ へらのようなもので引かれた凹線
- ・ 線を引くための間隔を取るためと見られる針で開けられたような小さな穴
- ・ 円を描くためのコンパスによる円中心の穴と凹線（凹線については、部分的に本紙が切れている部分が見られた。）〔図 41,42〕

(イ) 本紙裏面の朱線

裏打紙を外すと、本紙の裏面に朱線が現われた。製図技法の情報として重要であるので、裏打紙を除去、別保存とし、紙背朱線が見える形にした。〔図 43〕

(5)

畳み図資料における裏打ちに関する分類表



(6)修理状況一覧表 (修理年度順)

通し番号	修理年度	修理年度の通し番号	請求記号	名称※1	形態	員数	寸法 (cm)				畳み折り数				修理前裏打回数	裏打ち紙文字情報※2	本紙紙背
							修理前		修理後		修理前		修理後				
							縦	横	縦	横	縦	横	縦	横			
1	13	1	6151 03	江戸御城之絵図	絵図	一鋪	36.7	59.1	36.9	59.5	4	1	0	0	1	○	
2	13	2	6158 10	見合帳	冊子	一鋪	23.9	17.0	23.9	17.0					1		
3	13	3	616 14	江戸城御本丸御表御中奥御殿向御櫓御多門共総絵図	絵図	一鋪	197.4	140.1	198.5	142.1	5	5	2	2	2	②	○
4	13	4	616 34	御本丸屋根形之図	絵図	一鋪	103.0	113.1	103.9	114.2	7	3	1	1	1	○	○
5	13	5	616 37	御本丸御表方惣絵図	絵図	一鋪	98.0	137.5	98.6	139.7	7	3	1	1	1	○	○
6	13	6	6161 05	御本丸御座之間御茶所御張出萩之廊下御用場御廊下御屋根天井共御油煙出絵図	絵図	一鋪	52.4	61.7	52.6	62.1	3	2	0	0	1		○
7	13	7	6161 16	御本丸御座之間両妻破風絵図	絵図	一鋪	58.1	92.4	59.1	93.3	5	2	1	0	1		○
8	13	8	6162 07	御本丸大広間軒化粧(絵図)	絵図	一鋪	50.8	86.5	50.8	87.3	4	1	1	0	1	○	
9	13	9	6162 38	御本丸大広間御上段御中段格天井割絵図	絵図	一鋪	80.7	51.3	81.2	51.8	2	3	0	1	1		○
10	13	10	6162 49	御本丸大広間南正面改口二ヶ所鬼板正寸(絵図)	絵図	一鋪	107.4	194.4	107.8	195.1	7	2	2	2	1	○	○
11	13	11	6162 52	御本丸大広間御駕籠台唐破風懸魚絵様正寸(絵図)	絵図	一鋪	53.8	170.1	54.1	170.4	7	1	3	0	1	○	
12	13	12	6162 55	大広間御駕籠台虹梁絵様正寸(絵図)	絵図	一鋪	52.5	166.5	52.7	167.4	7	1	3	0	1	○	
13	13	13	6162 59	御本丸大広間表戸袋絵振板正寸(絵図)	絵図	一鋪	126.1	175.7	126.7	176.0	7	3	3	1	1	○	
14	13	14	6162 64	御本丸大広間中坪改口下り棟鬼板正寸絵図	絵図	一鋪	38.2	71.6	38.4	71.7	3	1	0	0	1	○	
15	13	15	6164 03	御本丸御白書院妻二十分一建地割絵図	絵図	一鋪	97.0	151.3	97.3	152.6	7	2	1	2	1	○	○
16	13	16	6165 11	御本丸御控座敷御成廊下御側衆部屋御用部屋時計之間奥御祐筆所之間羽目之間山吹之間其外共土台絵図	絵図	一鋪	62.0	96.4	62.6	98.0	5	2	1	0	0		○
17	13	17	6165 35	御本丸菊之間鷹之間芙蓉之間竹之間土台絵図	絵図	一鋪	48.0	69.4	48.0	70.1	3	1	0	0	0		○
18	13	18	6165 38	御本丸竹之間鷹之間芙蓉之間菊之間折廻し御入側細廊下地絵図	絵図	一鋪	50.5	69.6	50.8	70.3	3	2	0	0	0		○
19	13	19	6165 45	御本丸桔梗之間并御入側共軒計(絵図)	絵図	一鋪	74.1	52.4	74.6	52.8	2	3	0	0	0	○	
20	13	20	6165 46	御本丸高盛二階家并揚裏天井物置共軒計(絵図)	絵図	一鋪	71.2	52.0	71.8	52.3	2	3	0	0	0		○
21	13	21	6165 47	御本丸表新部屋新番所御高盛桔梗之間表上巻式之間御城付詰所次献之間小間遣部屋土台絵図	絵図	一鋪	52.0	73.2	52.1	73.6	3	3	0	0	0		○
22	13	22	6165 51	虎之間建地割(絵図)	絵図	一鋪	36.9	66.9	37.2	67.7	3	1	0	0	0		
23	13	23	6165 54	御本丸大広間御納戸構戸袋絵図	絵図	一鋪	84.7	36.0	85.0	36.1	1	3	0	1	1	○	○
24	13	24	6166 06	御本丸御小座敷鬼板正寸(絵図)	絵図	一鋪	106.1	94.1	108.2	95.0	4	5	1	2	0		
25	13	25	6166 25	御本丸御休息御小座敷上御納戸御駕籠台屋根絵図	絵図	一鋪	73.8	72.6	74.8	74.3	3	3	0	1	0		○
26	13	26	6166 30	御本丸御膳建拾置之間笹之間御側衆其外共土台絵図	絵図	一鋪	51.5	67.9	51.9	68.5	3	3	0	0	0		
27	13	27	6166 36	御本丸御新座敷小屋絵図	絵図	一鋪	51.7	57.3	51.8	57.6	3	1	0	0	1		
28	13	28	6166 41	御本丸御風呂屋向御側衆着替所夜具部屋其外共地絵図	絵図	一鋪	58.1	53.8	58.8	54.2	2	2	0	0	0		○
29	13	29	6166 42	御本丸御風呂屋向御側衆着替所夜具部屋其外共地絵図	絵図	一鋪	51.0	64.8	51.4	65.7	3	1	0	0	0		○
30	13	30	6166 44	奥下部屋向御風呂屋口御玄関小屋絵図	絵図	一鋪	34.1	87.9	34.1	87.9	3	2	1	0	0		○
31	13	31	6166 45	御本丸御風呂屋口御玄関奥下部屋向地絵図	絵図	一鋪	31.3	85.4	31.3	87.0	7	2	1	0	0		
32	13	32	6166 48	御本丸奥下部屋口御修復地絵図	絵図	一鋪	36.8	80.1	36.5	80.3	3	1	1	0	1	○	○
33	13	33	6166 78	御休息御棚唐戸大地割(絵図)	絵図	一鋪	68.6	38.2	68.9	38.5	1	3	0	0	0		○
34	13	34	6167 25	奥下部屋向御風呂屋口御玄関土台絵図	絵図	一鋪	34.8	88.9	34.8	88.9	5	1	1	0	0		○
35	13	35	6168 03	御本丸柳之間折廻し御廊下建地割(絵図)	絵図	一鋪	66.5	73.9	67.0	76.5	5	2	1	0	0		○

修理前裏打ち紙繊維組成	裏打ち					畳図裏打ち区分※4	備考
	修理前		修理後※3				
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目		
①1回目の裏打ち紙	再使用		新規 楮紙A	再使用			
②2回目の裏打ち紙	別保存						
楮100% (米粉)	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
	別保存						
②楮40%わら30%木材30%	別保存	再使用	新規 楮紙D	新規 楮紙A	再使用	I	1回目の裏打ち紙には本紙同様に傷みがあった為、保存取り扱いを重視し、1回目の裏打ち紙を別保存とし裏打ち紙を新調した。
楮100% (米粉)	再使用		新規 楮紙C	再使用		A	
楮100% (米粉形跡)	再使用		再使用			A	
	別保存					F	紙背に朱書、黒印（綴じ穴）があり、その面に図書館のラベル跡が見られた。図書館に入ってから裏打ちと判断し、除去した。
木材70%わら25%楮5% (マニラ麻形跡)	再使用		新規 楮紙A	再使用		E	
木材70%三稜20%楮10%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
	別保存					F	裏打ち紙は後世のものとして判断し、紙背の情報が見えるように裏打ち紙を除去した。
楮100%	再使用		再使用			A	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100%	再使用		再使用			C	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		A	
						P	
						P	
						P	
						P	
						P	
						P	
						P	
						P	
木材65%わら25%楮10%	再使用		新規 楮紙A	再使用		A	
			新規 楮紙B			Q	本紙が不定型な為、取扱上の負担を考え、保存性を重視して新規に裏打ちを行った。
						P	
						Q	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		G	
						P	
						P	
						P	
						P	
						Q	
木材65%楮20%わら15%	再使用		新規 楮紙A	再使用		A	
						P	
						P	
						P	

通し番号	修理年度	請求記号	名称※1	形態	員数	寸法 (cm)				畳み折り数				修理前裏打回数	裏打ち紙文字情報※2	本紙紙背	
						修理前		修理後		修理前		修理後					
						縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
36	13	36	6169 12	御本丸表御舞台正面拾分一建地割絵図	絵図	一鋪	104.7	113.3	105.1	113.9	3	3	1	1	1	○	
37	13	37	6169 13	御本丸表御舞台建地割絵図	絵図	一鋪	106.4	133.3	106.7	134.2	3	3	3	1	1	○	
38	13	38	6169 14	御本丸表御舞台瓶地絵図	絵図	一鋪	54.7	69.5	55.0	70.0	3	2	1	0	1		
39	13	39	6169 15	御本丸表御舞台御橋掛り建地割絵図	絵図	一鋪	60.7	81.0	60.9	81.2	5	2	1	0	1	○	
40	13	40	6169 17	御本丸表御舞台御小屋組絵図	絵図	一鋪	36.3	68.9	36.3	69.0	3	1	0	0	1		
41	13	41	6169 31	御本丸表御舞台小屋梁配絵図	絵図	一鋪	50.3	50.8	50.3	50.9	3	1	0	0	1	○	
42	13	42	6171 09	西丸仮御殿御中奥御廊下取置床カ并両開彫子縁正寸絵図	絵図	一鋪	40.1	58.9	40.2	59.2	3	1	0	0	0		
43	13	43	6171 16	西丸仮御殿殿上之間遠侍御道具置所足堅メ大引絵図	絵図	一鋪	36.5	50.8	36.7	51.1	1	1	0	0	1	○	
44	13	44	6171 23	西丸表御舞台続之間楽屋足堅大引絵図	絵図	一鋪	36.1	96.5	36.2	96.8	3	1	1	0	1	○	
45	13	45	6192 22	三重御櫓 (絵図)	絵図	一鋪	91.5	93.2	91.9	94.6	5	4	1	1	0		
46	14	1	616 01	江戸城御本丸表中奥御殿向並御やぐら御多門共屋根水取絵図	絵図	一鋪	559.9	358.1	568.7	360.3	7	17	3	8	1		
47	14	2	616 03	江戸城御本丸表中奥御殿向並御やぐら御多門共惣地絵図	絵図	一鋪	364.2	513.4	366.6	513.6	7	15	3	7	1		
48	14	3	6171 04	江戸御城西丸仮御殿向地絵図	絵図	一鋪	290.5	262.7	293.7	268.3	7	11	3	5	1	○	
49	14	4	6171 75	江戸御城西丸仮御殿向屋根水取絵図	絵図	一鋪	304.2	271.7	306.9	276.3	9	7	4	3	1	○	
50	15	1	616 39	御本丸表奥御殿向絵図	絵図	一鋪	175.3	137.3	178.3	138.9	6	5	3	2	2	①	
51	15	2	6162 02	御本丸大広間棟鬼板 (正寸絵図)	絵図	一鋪	211.8	158.2	212.7	158.9	5	5	2	5	1	○	○
52	15	3	6162 03	御本丸大広間大棟三ツ花懸魚正寸 (絵図)	絵図	一鋪	162.4	237.9	166.2	240.5	7	5	7	2	1		
53	15	4	6162 08	御本丸大広間地絵図 (百分の一)	絵図	一鋪	53.9	72.1	54.7	72.7	3	2	1	0	2	① ②	
54	15	5	6162 56	御本丸御駕籠台手狭正寸 (絵図)	絵図	一鋪	157.3	184.8	158.5	186.9	7	4	3	2	1	○	
55	15	6	6162 57	御本丸大広間御駕籠台唐戸三ツ斗正寸絵図	絵図	一鋪	75.1	160.3	76.4	162.0	4	3	4	0	1	○	
56	15	7	6162 63	御本丸大広間御中門鬼板正寸絵図	絵図	一鋪	132.1	222.7	133.0	223.8	7	3	3	1	2	①	
57	15	8	6166 11	御本丸御休息御入側木瓜形御窓絵様正寸 (絵図)	絵図	一鋪	162.7	327.2	163.9	327.5	8	5	8	2	1		○
58	15	9	6166 22	楓之間続き新御茶屋起絵図扣	絵図	一鋪	37.6	53.8	51.6	69.0	1	1	0	0	0		○
59	15	10	6166 33	御本丸御膳建建台之間笹之間御側御用人衆部屋下御納戸御側衆御談部屋中之御湯殿御拭板之間御築部屋御新廊下共地絵図	絵図	一鋪	52.3	74.2	52.8	75.6	n	2	0	0	0		
60	15	11	6166 70	御本丸小納戸衆西部屋二階家并椽側共矩斗 (絵図)	絵図	一鋪	75.9	24.2	76.2	24.2	2	2	0	0	0		
61	15	12	6167 09	御本丸当番所拾分壹矩斗絵図	絵図	一鋪	79.3	65.4	79.8	66.4	3	2	0	1	1		
62	15	13	6169 19	御本丸西丸御舞台御後座右側御絵正寸	絵図	一鋪	210.0	264.8	212.7	267.1	7	7	7	3	1		○
63	15	14	6169 20	御本丸表御舞台平建地割 (絵図)	絵図	一鋪	100.0	130.3	101.1	131.8	5	2	2	1	2	① ②	

修理前裏打ち紙繊維組成	裏打ち					畳図裏打ち区分※4	備考
	修理前		修理後※3				
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目		
①1回目の裏打ち紙							
②2回目の裏打ち紙							
楮100%	再使用		新規 楮紙A	新規 楮紙A	再使用		C
楮100% (米粉形跡)	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
楮100%	再使用		新規 楮紙E	再使用			G
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用			G
楮100% (米粉形跡)	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
							Q
木材45%楮40%三桮15%	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
楮100% (米粉形跡)	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
							Q
楮100%	別保存		新規 楮紙C	新規 楮紙E	新規 楮紙E		H 超大型図の為、保存、取り扱いを重視して新規裏打ちを行った。
楮100%	別保存		新規 楮紙C	新規 楮紙E	新規 楮紙E		H 超大型図の為、保存、取り扱いを重視して新規裏打ちを行った。
楮50%木材50%	別保存		新規 楮紙C	新規 楮紙E	新規 楮紙E		D 超大型図の為、保存、取り扱いを重視して新規裏打ちを行った。
楮 木材 三桮 わら	別保存		新規 楮紙C	新規 楮紙E	新規 楮紙E		D 超大型図の為、保存、取り扱いを重視して新規裏打ちを行った。
②木材75%楮10%わら5% (マニラ麻、三桮痕跡)	再使用	別保存	再使用				K 2回目の裏打ち紙は、紙質に問題があり、後世の裏打ちと判断し除去した。
楮100% (木材形跡)	別保存						B 紙背朱線は製図技法の情報として重要であり、裏打ち紙を除去しこれを見える形にした。
木材80%楮10%わら5%マニラ麻5%	別保存		新規 楮紙E				H 本紙裏面に図書館のラベルの痕跡があった。図書館に入ってから裏打ちと判断し、裏打ち紙を除去した。
②木材50%三桮30%楮20%	再使用	再使用	再使用	新規 楮紙A	再使用		N
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用			C
①楮100% ②木材60%楮40% (米粉、黄麻痕跡)	再使用	別保存		再使用			K S36館外修理により2回目の裏打ち(題字部分窓開け)が施されたと思われる。全体に硬く紙質に問題があるため2回目の裏打ち紙を除去した。
楮50%三桮30%木材20%	別保存		新規 楮紙A				F 紙背の朱書きは製図技法の情報として重要であり、裏打ち紙を除去しこれを見える形にした。
							P
							Q
							Q
楮100% (米粉形跡)	再使用		新規 楮紙A	再使用			G 綴じ穴が裏打ちまで貫通していた。
	別保存		新規 楮紙A	新規 楮紙			F 紙背は「御普請絵図」の黒印のみで本紙がキラ引きの礫砂、水受けによる劣化が見られた。保存取り扱いの点から新規裏打ちを施した。
①楮100% ②楮80%木材20% (マニラ麻、わら形跡)	再使用	別保存	新規 楮紙A	再使用			M 2回目の裏打ち紙に墨書があったが、木材パルプ入りの非常に弱い紙で戻すことにより構造上に問題が起る可能性があるため別保存とした。

通し番号	修理年度	請求記号	名称※1	形態	員数	寸法 (cm)				畳み折り数				修理前裏打回数	裏打ち紙文字情報※2	本紙紙背	
						修理前		修理後		修理前		修理後					
						縦	横	縦	横	縦	横	縦	横				
64	15	15	6169 23	御本丸西丸御舞台正面御絵正寸(絵図)	絵図	一鋪	214.2	560.9	218.5	566.8	16	9	16	3	1		
65	15	16	6171 18	江戸城西丸仮御殿大広間妻之方式拾歩一建地割(絵図)	絵図	一鋪	68.6	146.3	70.0	147.7	6	3	3	0	2	②	
66	15	17	6171 21	江戸城西丸仮御殿総地絵図	絵図	一鋪	97.7	120.1	99.1	121.7	4	5	1	2	1		
67	15	18	6171 56	大広間後御入側御切目椽上妻戸絵図	絵図	一鋪	51.8	37.1	51.8	37.1	3	3	0	0	0		○
68	15	19	6171 63	西丸御殿	絵図	一鋪	112.5	118.5	114.2	119.8	4	6	2	1	2	①	
69	15	20	6174 03	江戸御城内北之丸様御舞台(絵図)	絵図	一鋪	100.3	233.3	102.6	239.7	9	2	4	1	1	○	○
70	15	21	6181 04	御本丸大奥絵図	絵図	一枚	45.0	36.8	45.8	37.7	3	2	0	0	1		
71	15	22	6182 04	西丸大奥向絵図	絵図	一鋪	51.7	70.8	52.3	71.4	2	3	0	0	2		
72	15	23	6191 02	江戸城御本丸御天守台絵図	絵図	一枚	36.7	54.6	37.3	55.3	3	1	0	0	2	②	
73	15	24	6192 05	御本丸御台所前三重御櫓平妻建地割(図)	絵図	一鋪	105.1	106.8	105.6	106.8	4	2	2	1	1	○	
74	15	25	6192 06	御本丸御書院渡御櫓拾分一之絵図	絵図	一鋪	97.3	128.8	99.2	130.9	7	3	1	1	0		
75	15	26	6192 13	[御本丸御書院式重御櫓等矩斗原図]	絵図	一鋪	27.4	37.2	27.3	39.4	3	1	0	0	0		
76	15	27	6192 18	二重御櫓(絵図)	絵図	一鋪	55.3	70.4	55.5	70.5	5	2	1	0	0		○
77	15	28	6194 04	神田橋冠木御門妻地割	絵図	一鋪	47.0	48.3	47.1	48.3	2	1	0	0	0		○
78	15	29	6194 ⁰⁵ ₀₁	神田橋冠木御門平地割(絵図)(1)	絵図	一鋪	47.7	52.3	47.8	52.3	2	1	0	0	0		○
			6194 ⁰⁵ ₀₂	神田橋冠木御門平地割(絵図)(2)	絵図	一枚	29.2	39.6	29.3	39.6	2	1	0	0	0		
79	15	30	6195 09	御本丸中之口御門懸魚正寸(絵図)	絵図	一鋪	53.0	119.5	54.0	120.9	7	2	2	0	1	○	
80	16	1	6151 02	江戸御城之絵図	絵図	一鋪	36.7	54.7	37.6	55.8	3	1	0	0	1	○	
81	16	2	6151 04	江戸城御本丸御表御中奥御大奥総絵図	絵図	一鋪	71.2	98.7	72.3	100.3	3	3	2	0	2	① ②	○
82	16	3	6162 09	御本丸大広間地絵図	絵図	一鋪	87.1	103.6	89.8	104.9	5	3	1	1	1	○	
83	16	4	6162 58	御本丸大広間御駕籠台板唐戸上幕股(絵図)	絵図	一鋪	52.0	92.1	52.8	92.9	5	1	1	0	1	○	
84	16	5	6162 71	御本丸大広間御四之間格天井割絵図	絵図	一鋪	80.4	63.6	80.4	63.5	3	3	0	1	1		○
85	16	6	6163 05	御本丸御黒書院御正面二十分ノ一建地割絵図	絵図	一鋪	75.9	122.4	76.8	123.2	2	1	1	1	1	○	○
86	16	7	6164 14	御本丸御白書院南側矩斗(絵図)	絵図	一鋪	79.2	39.8	79.4	39.8	1	4	0	1	1		
87	16	8	6165 12	御控座敷御成廊下御側衆部屋御用部屋時計之間奥御祐筆所中之間羽目之間山吹之間新番所前廊下足元之図	絵図	一鋪	62.1	97.9	62.7	99.3	5	2	1	0	0		
88	16	9	6166 03	御本丸御小座鋪掛魚六葉正寸(絵図)	絵図	一鋪	77.0	99.1	76.4	99.7	2	2	1	0	0		○
89	16	10	6166 37	御本丸御風呂屋向御側衆着替所夜具部屋其外共土台絵図	絵図	一鋪	49.7	65.4	49.9	65.9	3	1	0	0	0		
90	16	11	6169 25	御本丸表御舞台幕股正寸(絵図)	絵図	一鋪	55.1	137.0	55.1	137.6	5	1	2	0	0		
91	16	12	6171 25	元禄度江戸城西丸御表御中奥御殿向総絵図	絵図	一鋪	123.3	126.5	124.2	127.1	5	2	2	1	2	① ②	
92	16	13	6171 32	江戸西丸仮御殿御玄関御正面建地割(絵図)	絵図	一鋪	108.3	152.6	109.7	154.0	5	1	2	1	2	②	

修理前裏打ち紙繊維組成	裏打ち					畳図裏打ち区分※4	備考
	修理前		修理後※3				
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目		
木材80%わら20%	別保存		新規 楮紙C	新規 楮紙E		F	
②楮100% (米粉形跡)	再使用	再使用	新規 楮紙A	再使用	再使用	J	1回目の裏打ちに文字などの情報はないが元装に近い裏打ちとして再使用した。
木材50%楮40%三樞10% (わら形跡)	別保存		新規 楮紙C			H	
						P	
②楮100%	再使用	別保存	新規 楮紙A	再使用		K	1度目の裏打ちに文字情報があり、2回目を除去し、その情報を表に出した。
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		A	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		G	裏打ち紙へ彩色の色が抜けていた。
①楮100%	再使用	別保存	再使用			O	1回目の裏打ちに図書館のラベル跡あり。2回目の裏打ちは図書館に入ってからのもので判断し、除去した。
②楮60%三樞20%木材20%	再使用	再使用	再使用	新規 楮紙A	再使用	J	1回目の裏打ち紙には文字などの情報はないが、元装に近い裏打ち紙として再使用した。
楮60%わら20%木材20%	別保存					D	裏打ち紙に墨書されていたが、木材パルプ入りで非常に脆弱な為、剥がす際に傷んだ。戻すことにより構造的にバランスを崩す可能性がある為、別保存とした。
						Q	
						Q	
						P	
						P	
						P	
						Q	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100% (米粉)	再使用		再使用			C	
②楮60%三樞20%木材20% (米粉)	別保存	再使用	新規 楮紙C	再使用		L	1回目の裏打ち紙に本紙同様に傷みがあった。保存取り扱いを重視し1回目の裏打ち紙のみ新調した。
木材50%楮40%三樞10%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
木材70%楮15%わら15%	別保存					F	裏打ち紙は後世のもので判断し、紙背の情報が見えるように裏打ち紙を除去した。
楮50%木材25%わら25% (米粉三樞形跡)	再使用		新規 楮紙A	再使用		A	
木材80%楮10%わら10%	別保存					H	紙質に問題があり、この種他図面も裏打ちのないものがほとんどであることから、裏打ち紙を除去した。
						P	
						P	
						Q	
						Q	
①楮60%わら30%木材10% (米粉) ②木材60%楮20%わら20%	再使用	別保存	再使用	新規 楮紙A		N	2回目の裏打ち紙は木材パルプ入りで非常に脆弱な為題字部分のみを残して新調した。
②楮100%	再使用	再使用	再使用	新規 楮紙A	再使用	J	1回目の裏打ち紙に文字などの情報はないが元装に近い裏打ち紙として再使用した。

通し 番号	修理 年度	修理 年度の 通し 番号	請求記号	名 称※1	形態	員数	寸 法 (cm)				畳み折り数				修理前 裏打回数	裏打ち 紙文字 情報※2	本紙 紙背
							修理前		修理後		修理前		修理後				
							縦	横	縦	横	縦	横	縦	横			
93	16	14	6171 41	西丸仮御殿敷絵図	絵図	一鋪	72.1	59.2	72.3	59.4	3	2	0	1	1		
94	16	15	6171 45	西丸御舞台三ツ斗正寸絵図	絵図	一鋪	50.0	87.1	50.0	86.7	3	5	1	0	0		
95	16	16	6171 62	西丸仮御殿総絵図	絵図	一鋪	71.9	59.2	71.9	59.3	3	2	0	1	1		
96	16	17	6171 64	西丸仮御殿向絵図	絵図	一鋪	62.1	57.3	62.6	58.3	2	3	0	1	2		
97	16	18	6171 65	西丸仮御殿向絵図	絵図	一鋪	61.0	57.4	62.3	58.3	3	2	1	0	2		
98	16	19	6171 70	西丸二重橋建地割絵図	絵図	一鋪	37.0	82.4	36.5	82.8	4	1	1	0	1		○
99	16	20	6176 04	吹上御苑之図	絵図	一枚	26.1	36.2	26.1	36.7	1	1	0	0	0		
100	16	21	6176 05	(吹上元御花鳥絵図)	絵図	一鋪	39.8	70.1	40.8	71.8	7	1	0	0	1	○	
101	16	22	6192 11	御台所前三重御櫓軒茅屑反り元絵図	絵図	一枚	27.4	38.1	27.4	38.2	3	1	0	0	0		○
102	16	23	6194 06	櫓多門之部冠木門ノ図	絵図	一鋪	58.3	82.3	58.3	83.6	5	2	1	0	0		○
103	16	24	6195 05	御本丸御風呂屋口御門矩斗(絵図)	絵図	一鋪	40.3	52.9	40.1	52.9	3	1	0	0	0		○
104	16	25	6195 06	御本丸御楽屋脇腕木御門建地割(絵図)	絵図	一鋪	50.3	90.9	51.1	91.7	5	1	1	0	1	○	
105	16	26	6195 07	御本丸表御楽屋脇腕木戸御門建地割(絵図)	絵図	一鋪	37.7	89.5	38.4	90.1	5	1	1	0	1	○	
106	16	27	6181 02	御本丸大奥御殿御床棚絵図	折本	一帖	30.0	21.2	33.8	21.5					2		
107	16	28	6194 02	江戸城御外郭御門絵図	折本	一帖	27.7	19.8	31.4	19.8					2		
108	16	29	6167 D3	御本丸表玄関等絵図	卷子	一卷	27.0	263.8	28.0	298.9					1		

- ※1注 (1)資料の名称は、「江戸城造営関係資料(甲良家伝来)目録」(文化庁文化財保護部美術工芸課 昭和62年3月)に基づく。
- ・「東京誌料分類目録 その一」(東京都立日比谷図書館 昭和38年3月)とは、一部、名称が異なっているものがある。
 - ・5資料編(1)資料一覧では、東京誌料分類目録の名称をあげ、文化庁目録の通し番号をつけて相互参照できるようにした。
- (2)資料の寸法等
- ・指図 台紙の寸法、貼紙の飛出し部分等を含んだ最大寸法を記す。
 - ・冊子 (2)6158-10 紙数7紙
 - ・折本 (106)6181-02 21折20図
 - ・折本 (107)6194-02 27折26図
 - ・卷子 (108)667-D3 6紙6図

※2注 裏打紙文字情報

- 裏打紙に直接墨朱書、印などの情報があるもの
- ①裏打ちが2回あり、1回目の裏打紙にのみ情報があるもの
- ②裏打ちが2回あり、2回目の裏打紙にのみ情報があるもの
- ①②裏打ちが2回あり、1回目2回目ともに裏打ち紙に情報があるもの

修理前裏打ち紙繊維組成	裏打ち					畳 図 裏 打 ち 区 分 ※ 4	備考
	修理前		修理後※3				
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目		
木材80%楮10%三桧10%	別保存					H	本紙裏面に図書館のラベルの跡が見られた。図書館に入ってから裏打ちと判断し、裏打ち紙を除去した。
木材80%わら20%楮痕跡	別保存					Q	
①楮100% ②楮100%	再使用	別保存	新規 楮紙A	再使用		O	1回目の裏打ち紙に図書館のラベル跡が見られた。2回目の裏打ち紙は図書館に入ってからのもので判断し、除去した。
①楮100% ②楮100%	再使用	別保存	新規 楮紙A	再使用		O	1回目の裏打ち紙に図書館のラベル跡が見られた。2回目の裏打ち紙は図書館に入ってからのもので判断し、除去した。
木材65%わら35%	別保存					F	裏打ち紙は後世のもので判断し、紙背の情報が見えるように裏打ち紙を除去した。
						Q	
楮100% (米粉)	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
						P	
						P	
						P	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100%	再使用		新規 楮紙A	再使用		C	
楮100% (米粉)	別保存	別保存	新規 楮紙C	新規 楮紙D			
楮60%わら30%木材10% (米粉形跡)	別保存	別保存	新規 楮紙C	新規 楮紙D			
楮100%	別保存		新規 楮紙C	新規 楮入り雁皮紙			

※3注 新規裏打ち紙

楮紙 A 薄美濃紙 薄口	長谷川聡製 (岐阜県)
楮紙 B 薄美濃紙	長谷川聡製 (岐阜県)
楮紙 C 楮紙(悠久紙)	宮本友信製 (富山県)
楮紙 D 宇陀紙	福西弘行製 (奈良県)
楮紙 E 楮紙	井上稔夫製 (高知県)
楮入り雁皮紙	加藤瞳製 (石川県)

※4注 p19 畳み図資料における裏打ちに関する分類表の分類区分を表す。